

成果指標				
成果指標	カーシェアリングの台数			
指標設定の考え方	カーシェアリングを計画的に行うことが、公用車の削減等につながり、しいては、庁用自動車等の効率的かつ経済的な配車、整備及び管理を行うことができる。			
区分年度	24年度	25年度	26年度	目標29年度
目標	0	7	9	15
実績	5	5	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	約100台あまりの公用車があり、すべての車の状況を管理することは難しい。また、10年を経過しているものが多いことから、維持管理費が年々増加傾向である。、15年経過、10万km以上の車をピックアップし、計画的に削減・更新・カーシェアリングを行う。公用車の適正台数化、維持管理費の削減を目指す。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	駐車場の確保は、新庁舎建設に向けての大きな課題となっている。公用車管理にあたっては、安全性や経済性確保の観点から、走行距離が長いものや取得後一定期間を経過したものを優先的に廃車し台数の減少を図るとともに、限られた台数での有効活用を図るためカーシェアリングの早期徹底に努める必要がある。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。
意見、課題	更新に際し、廃車のみを前提とするのではなく、売却処分も検討のこと。

行政評価委員会の答申

外部評価
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

下記の点を見直しの上、継続する。

意見、課題

二次評価の内容を踏まえ見直すこと。